

ずっと興味を持つべし。

研究テーマ

二つほど別々の研究をしています。

1) L2(第二言語)を使って読書をしている時のL1(母国語)の役割についてです。なぜ学習者はL2のものをL1に脳内変換したりL1で考えたりするのか?私の研究では脳の情報処理、言葉の意味の見だし方、母国語と第二言語の習得の仕方によることがわかりました。私は脳科学の研究結果から脳の働きをもっと理解し、教材や教育方法を脳の学習方法により添ったものにしようとしています。

2) 日本の若者はどういった音楽を聴いていて、どのようにしてアクセスするのか? 特にどの欧米音楽をYouTubeで見て聞いているのか? 音楽を聴いている時にどれぐらい映像を見ているのか? 欧米ミュージックビデオをどう解釈しているのか? これらについて研究しています。

研究の道へ進んだきっかけ

私の最初の研究はバイリンガリズム(2言語話せること)、もとい日本と国際学校の学校教育の違いについてでした。これは母である私が三人のバイカルチャル(2つの文化を持つ)/2言語を話す子供を京都で育てた事と直接関係しています。私は京都インターナショナルスクールの理事長を勤め、教育方法をたくさん研究し、いじめや一人一人の学習方法が違うといった問題に取り組みました。子供が大きくなったため、自分の教室に注目するようになりました。長年イギリスメディアについて講義してましたが、更新る知識を得るためにミュージックビ



デオと日本のオーディエンスについて調べる事に決めました。なのでPhDプログラムを受け、様々な研究方法やアプローチを学びました。私がExtensive Reading(多読)を研究しようと思ったのは、なぜか一部の学生は読書が大好きでその他はとて苦勞していたのが気になったからです。学生にインタビューをして驚いたのは、英語のレベルが教材のと一緒にはずなのに多くの学生は読みながら英日変換をしないと聞かされたのです。この謎を解きたい!脳科学の研究によって私は活発で健康的な脳にとって十分な運動、健康的な食事と熟睡がどれだけ大切か知りました。私自身も実施していますし、学生にも自分の脳の管理を勧めるようになりました。

研究者になってよかったと思うこと

研究者になると新しい人々を様々な場所や環境で出会えます(学校、組織体、研究センターなど)。また、私の分野についてより深く広い知識を得たり、新しい情報をそのまま講義に繋げる事ができます。そういった知識が私を講義内容や教え方にもっと気を使うにしました。常に新しいものを学ぶのが、面白くて刺激的です。さらに、私の分野に色んな知識を注いでいる実感があります。加えて、会議にプレゼンテーションをすると国内外出張でき、同じ分野の会った事のない方々と面識を取る事ができます。研究論文は時間、エネルギー、集中力がたくさん必要ですが研究過程の欠かせない部分ですし、発表したとき、またそれを他の人に読まれて自分が発見した新しい見識と情報を認められたときはとても満足できます。

座右の銘

ずっと興味を持つべし。理由を模索する事。肉体的にも精神的にも活発に働かしつつ人生を謳歌する事。広々と書物を読んで最新の考え、または様々な分野の発見を取りこぼさない事。線を結ぶ事 (アイデアにも人にも)

研究とプライベートの両立で工夫していること

私は私の夫と息子達の支え無しに研究者にはなれませんでした。私が会議に出てたりデータを集めている間は主人が家

ギリス フルタカ アマンダ

Amanda Gillis-Furutaka

京都産業大学 外国語学部 教授
英語教育 イギリスの文化とメディア



最近の主な論文・評釈

2015年3月 Graded reader readability:
Some overlooked aspects The
Journal of Extensive Reading
http://jalt-publications.org/access/index.php/JER/issue/view/10_pp.11-19.

2015年3月 The Multiple Uses of the
LI When Students Read EFL Graded
Readers英語学習用レベル別多読教材
講読時の多様なLI使用について京都産業
大学教職研究紀要10号pp. 23-47

略歴

1974-1978 University of Exeter, Faculty of Foreign Studies, Department of French, 卒業
1978-1980 Centro do Ensino de Linguas e Formacao Industrial, Setubal, Portugal 英語講師
1980-1981 University of Leeds, English Education Department, Postgraduate Diploma in Teaching English as a Second Language修了
1981-1982 Hunan Agricultural College, Changsha, China英語講師
1983-1988 Sociedade Brasileira de Cultura Inglesa, Rio de Janeiro, Brazil英語講師
1988-1992 British Council, Kyoto, Japan英語講師
1990-1992 University of Birmingham, Centre for English Language Studies, MA in Teaching English as a Foreign Language修了
1993京都産業大学外国語学部英米語学科講師
2011京都産業大学外国語学部英米語学科准教授
2015京都産業大学外国語学部英語学科教授
2001-現在に至るバーミンガム大学 遠距離教育 修士号取得コースの講師(チューター)
2009-現在に至るPhD candidate Department of Music, Goldsmiths College, University of London

My Hobby

ハイキング、読書、映画観賞、音楽、猫の世話、旅行

BEST SHOT

自転車、登山靴、本、インクが消せるペン

族の面倒を見てくれています。息子達には私が日本語や日本の文化に対して質問があるときに答えてくれていますし、アイデア持ちかけると話し合ってくれたり、私が書いたものを和訳してくれています。(この紹介文も!)こんなに優れたチームに支えてもらって私は幸運です、そのお返しに家事を責任を持って取り組んだり家族の時間を作ったりしています。教授でいたり、活発な研究家でいたり、妻や母でいたりすると自分の自由時間は稀にしかない事を意味しますが、その時間を大事にしてみます。

人生の転機になった一冊/学生に薦めたい一冊
ジャレド・ダイヤモンド作「銃・病原菌・鉄」です。この本はグローバルな文脈で人類史を知る足がかりになり、なぜ過去に文明は栄えては滅んだのか、そして現文明の崩落の原因となり得るものとは何かを知る事ができます。

未来の研究者へ一言

自分が魅了されているもの、または興味湧くものに集中してください。肉体的にも精神的にも活発な人生を送って下さい。